

「骨転移の治療効果判定における骨 SPECT の有用性に関する研究」に関する情報公開

1. 研究の対象

骨転移の治療経過観察を目的として、2008年4月から2018年4月までに当院で骨シンチグラフィ検査においてプラナー撮影, Single photon emission computed tomography (SPECT) 撮影を行い, かつ ^{18}F -FDG Positron emission tomography (PET) 検査, ^{18}F -fluoride PET 検査を行った方

2. 研究目的・方法

PET を用いた治療効果判定指標として、定量的指標である standardized uptake value (SUV) が広く用いられています。SPECT は PET よりも定量性に乏しく、SPECT を用いた定量評価は困難とされてきました。近年では、減弱補正や散乱補正が可能な SPECT/CT 装置の普及により補正精度が向上し、PET と同様に SPECT を用いた SUV 評価が可能となりました。治療前後の SUV を比較することによって、治療効果判定における診断能の向上が期待されます。本研究では、骨 SPECT 画像から算出した SUV と PET 画像から算出した SUV や他の骨転移指標を比較することによって、治療効果判定における骨 SPECT の有用性について検証することを目的としています。

方法としては、診療データ(カルテ等)より、骨転移の治療経過観察を目的として骨 SPECT 画像, ^{18}F -FDG PET 画像, ^{18}F -fluoride PET 画像を撮像された骨転移のある患者を選択し、後ろ向きに研究します。各画像の骨病変に対して、関心領域 (region of interest: ROI) を設定し, ROI 内の放射能濃度を体重と投与量で補正することで SUV を算出します。骨 SPECT 画像から得られた、治療経過に伴う SUV の変化と ^{18}F -FDG PET 画像, ^{18}F -fluoride PET 画像で得られた治療経過に伴う SUV の変化との相関を分析します。また、腫瘍マーカーや骨代謝マーカー等の他の骨転移指標との相関も分析します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料：シンチグラフィ, SPECT 画像, PET 画像等

情報：病歴, 年齢, 性別, 治療経過, 血液検査結果等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承い

ただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

しかしながら、解析終了後または学会・論文での発表後には、データを削除できないことがあります。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

名古屋大学大学院医学系研究科医療技術学専攻

名古屋市東区大幸 1-1-20

TEL 052-719-1504

研究責任者：

名古屋大学大学院医学系研究科医療技術学専攻医用量子科学講座

教授・加藤克彦

名古屋市東区大幸 1-1-20

TEL 052-719-1590

katokt@met.nagoya-u.ac.jp